



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和6年9月30日) 第18号



学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」 八鹿青溪中 HP

9月の全校集会

9月は2日(月)と18日(水)と2度の全校集会がありました。校長講話の内容を一部ですが紹介します。

◆2日(月)「貫徹・慎独・創造」の成果 ※一部抜粋

“始業式で紹介したように、野球部が全国大会に出場したことをはじめ、今年の夏は八鹿青溪中学校の各運動部が数多く県大会に出場するなど素晴らしい成績を挙げました。また、吹奏楽部が見事に但馬金賞を受賞しました。いっぽうで、但馬総体で敗退してしまった各運動部もけっして恥ずかしくない立派な試合ぶりだったと聞いています。私は、それらの陰に八鹿青溪中学校の校訓「貫徹・慎独・創造」が影響していると思っています。



まずは、「貫徹」です。きっと、「今日は部活動に行きたくないなあ。」とか、もしかしたら「部活動をやめてしまいたいなあ。」と思ったことのある人も少なくないと思います。でも、その心に打ち勝って、最後まで続けてきたからこそ今回の結果があると思うのです。

次に「慎独」です。きっと、誰も見ていないことをよいことに、「手を抜こうかなあ。」とか「適当に済ませようかなあ。」などと考えた練習場面もあったのではないのでしょうか。しかし、そういう時に、誘惑に負けない正しい行いをしてきたからこそ今回の結果があると思うのです。

最後に、「創造」です。日々行っている練習ですが、顧問の先生に教わった事柄を基盤にしながらも、きっと、「こうやって投げよう。」「あの打ち方がよいかな。」などと自分なりの創意工夫があったはず。だからこそ、それぞれの技術を伸ばすことができて、今回の結果につながっていると私は思います。これからも「貫徹・慎独・創造」の校訓を胸に生活していきましょう。”

◆18日(水)学校行事は“おかず”、授業は“ごはん” ※一部抜粋

“体育祭が終わりました。いろいろな種目で、生徒の躍動する姿を見ることができ、本当に素晴らしい体育祭だったと思います。特に印象に残っている種目は、やはり「八鹿青溪ダンス」です。皆さんの迫力に圧倒されるような気になりましたし、今でも皆さんの「どっこいしょー!どっこいしょー!」の聲が私の頭で巡っており、時折「どっこいしょー!」と口に出してしまうことがあるほどです。



次に印象に残っているのは、「徒競走」です。皆さんの中には、走ることが得意な人もいれば苦手な人もいます。しかしながら、1人1本を誰の力も借りることなく、最後まで責任を持って走り遂げる姿にとても感動しましたし、たのもしく思えました。また、選手コールの際に、しっかりと拍手する応援の生徒の姿も嬉しかったです。

さて、体育祭をはじめとする学校行事は、食事に例えると「ごはん」でしょうか?それとも「おかず」でし

ようか？そうです、学校行事はあくまでも「おかず」です。主食である「ごはん」は日々の授業です。体育祭で発揮した皆さんのパワーを、今度は授業に向けていけばきっと素晴らしい2学期、3学期になると思います。今年度後半の八鹿青溪中学校のさらなる躍動に大いに期待します。

さて、今日は、八鹿青溪中学校の前半を3名の先生方に振り返っていただこうと思います。今回お話しいただくのは、今年度初めて八鹿青溪中学校に来られた津崎先生、大封先生、國谷先生です。それでは3名の先生方、よろしくお願いします。”

※3名の教員からは、これまでの半年を振り返り、「あいさつの大切さ」「不安な気持ちとの向き合い方」「話の聞き方」「頑張ることの素晴らしさ」などに触れながら、八鹿青溪中学校の生徒の良さや今後への期待についての話がありました。



鳥のさえずりに驚いたあの朝

もう20年以上も前の冬。仕事に明け暮れていた生活の中でなんとか3日間の時間を捻出し、ひとり旅に出かけたことがあります。特に行き先は決めずに八鹿駅から普通電車に乗り込み、各駅停車でたどり着いた地は長野県の上田市。その上田市の郊外にある別所温泉という静かな温泉場で1日目の夜を過ごすことにしました。遅い時刻に着きましたが、なんとか夕食を用意していただくことができ、また、翌日は、早朝より朝風呂にも入らせていただき、安価でありながらもたいへん親切丁寧な宿であったと今でもよく覚えています。

なにしろ各駅停車の旅ですから、足早に次の出発をしないことには3日間で但馬に帰ってくることはできません。まだ薄暗がりの朝6時頃に後ろ髪引かれるようにその宿を出発して、別所温泉駅までの道のりを歩きました。東の空がどんどん明るくなっていく中で、私の耳に鳥の「チュンチュン、チュンチュン・・・」というさえずりが飛び込んできました。なんだかずいぶん久しぶりに聞くような気がして胸がどんとどんと高鳴っていきます。なんでこんな些細なことに心が揺さぶられるのだろうと思いながら歩いているうちにあることに気がつきました。「そうだ、私は長い間、車ばかり使っていて、ろくに自分の足で道を歩いていなかった」と。つまり、鳥がさえずるというごくありふれた日常に全く気を留めることもなく、毎日車を運転しながらカーステレオの音ばかり聞いていたということなのです。

さらに、もう少しそのまま歩を進ませると、今度は「ピュー、ピュー・・・」という風の音も耳に入ります。そして、冬の冷たい空気が私の頬をなでます。また、別所温泉駅の近くでは、何人かのご高齢の方が、「おはようございます」というあいさつをしてくださいます。こんなゆきずりの旅人に対してでも丁寧に頭を下げてくださいる方の姿に恐縮して、おもわず背筋が伸びてしまいました。いずれも車で移動している限り得ることのない“感覚”です。「このように、時には自分の足で道を歩いてみるということはとても大切なことではないのか」と自問自答しながら、別所温泉駅からの始発電車に乗り込み、今度は群馬県境にまたがる碓氷峠をめざしました。

あれからかなりの年月が経過しました。今は八鹿青溪中学校の校門で、毎朝、登校してくる生徒を迎えています。鳥のさえずりや風の音、そして地域の方の心に触れながら学校へ向かって歩いてくる生徒たちの姿を前に、そのありふれた日常からどんなことを感じているのだろうと思いを巡らすことがあります。鳥のさえずりに驚いたあの朝を思い起こしながら。

